

特別支援学級における
児童が関わり合える
自立活動の実践

— 「お誕生日会をしよう」 —

特別支援学級 の実態

- ・学力差や発達の差が大きい状況であるため、異なる学習内容を行うことが多く、児童同士が関わる機会が少ない。

- ・学年が上がるにつれ自己肯定感の低下が見られ、意欲的に物事に取り組むことができなかったり、苦手なことや興味のないことに取り組もうとしなかったりする。

自立活動「なかよしタイム」の実践

目的

個人の経験だけでなく、集団の中で周囲との関わりを通じた経験ができるようにする。

なかよしタイム

「お誕生日会をしよう」 特別支援学級2学級合同（知的・自情）

全体目標

○「お誕生日会」をすることを通して、自分の役割を果たしたり、
お互いに関わり合いながら活動したりすることができる。

[3—(4)・6—(5)]

○相手を喜ばせたい気持ちをもつことができるようにする。

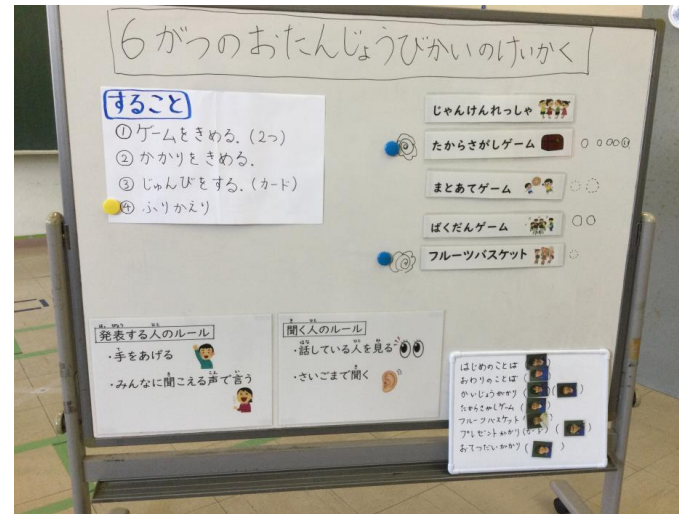
[3—(2)]

なかよしタイム

「お誕生日会の計画をしよう」

・授業の流れ（話し合い活動）

- ①【集団】何のゲームをするか（2つ決める）
- ②【集団】係を決める
- ③【個別】準備をする
- ④【集団】振り返り



なかよしタイム

「お誕生日会をしよう」

・授業の流れ（係活動・ゲーム等）

おたん^{じょう}生日^ひ会^{かい} プログラム

- ① はじめのことば
- ② おたん^{じょう}生日^ひのしょうかい
- ③ たん^{じょう}生日^ひのうた♪
- ④ プレゼント (カード)
- ⑤ たん^{じょう}生日^ひの人^{ひと}より ひとこと
- ⑥ おたのしみゲーム
- ⑦ きねんさつえい (しゃしん)
- ⑧ おわりのことば

<事例>

A児の実態把握

<流れ図作成>

得意なこと・頑張っていること	苦手なこと・困っていること
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・責任感が強く、係の仕事や当番などにしっかりと取り組んでいる。 ・交流学級では、発表をよく頑張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強く、自分が正しいと思っていることについては、たとえ間違っていることであっても認めることが難しい。 ・自分に興味のないことにはやる気を示さず、特に集団活動についてはしぶることが多い。

A児

【自立活動シート】

1 実態把握

*苦戦していること、困っていることの中で優先順位が高いものに◎

子どもの姿	
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと	本人の苦手なこと、困っていること
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲的に取り組むことができる。 ・責任感が強く、係の仕事や当番などにしっかりと取り組んでいる。 ・交流学級では、発表をよく頑張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の定着が難しく、特に漢字の読み書きは繰り返しが必要である。 ・語彙が乏しく、知っている言葉の範囲が狭い。生活経験の少なから、言葉聞いてもイメージできていないことが多い。 ◎こだわりが強く、自分が正しいと思っていることについては、たとえ間違っていることであっても認めようとはしない。 ◎自分に興味のないことにはやる気を示さず、特に集団活動に対してはしぶることが多い。

*「自立活動の6区分27項目」に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・他者との違いから自分を否定的に見えてしまっていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人どうまく読めることに自信がもてず、自ら人と関わろうと努力が低下している。 ・学年が上がり、学習内容が難しくなるにつれて理解が難しくなり、自分の思う結果が得られないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己に肯定的な感情をもつことが難しい状況にあり、活動が消極的になったり投げやりの態度になったりする。 ・必要以上に自分をよく見せたいという願望があり、失敗したくないから活動しないという場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「だいたい」「もう少し」など抽象的な表現が十分理解できていないことがあり、意思疎通できていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大な運動・動作には問題は見られないが、細かい手先を使った作業が難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことなどを言葉にして表現することが難しく、相手に意思が伝わらないことがある。 ・必要なことを伝えたり困ったことなどを相談したりすることが苦手である。

2 指導目標の設定

*現在の子どもの姿から1年後に「目指す姿」を設定

<p>【長期（例：1年間）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と望ましいコミュニケーションをとることができる。 ・集団参加ができる。
--

3 指導項目の選定

指導目標を達成するために必要な項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目	<input type="checkbox"/> (1)生活リズムや生活習慣の形成に関すること <input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること <input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること <input type="checkbox"/> (4)障がいや特性の理解と生活環境の調整に関すること <input type="checkbox"/> (5)健康状態の維持・改善に関すること	<input type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関すること <input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関すること <input checked="" type="checkbox"/> (3)障がいによる学習上は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関すること <input checked="" type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関すること <input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関すること <input checked="" type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関すること	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関すること <input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること <input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代手段の活用に関すること <input type="checkbox"/> (4)感覚統合的に活用した資源の状況に応じた把握と状況に応じた行動に関すること <input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技術に関すること <input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること <input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関すること <input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関すること <input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と丁寧な遂行に関すること	<input type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること <input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関すること <input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関すること <input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること <input checked="" type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

4 具体的な指導内容の設定

<p>【具体的な指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団での活動の中で、ルールに沿って話し合ったり協力したりしながら進める課題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級での出来事を特別支援学級担任に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のみあてカード」を作成し、授業が終わった後で学習の様子を振り返る。
<p>【指導時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間 ・各教科 ・朝の会・帰りの会 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間 ・各教科 ・帰りの会 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動 ・各教科

標的行動と達成基準

A児

標的行動 「①自発的に自分の意見を1回以上発表する」
「②他者を意識した発言をする」
「③自分の活動を振り返り，頑張ったことを自発的に
1回以上発表する」

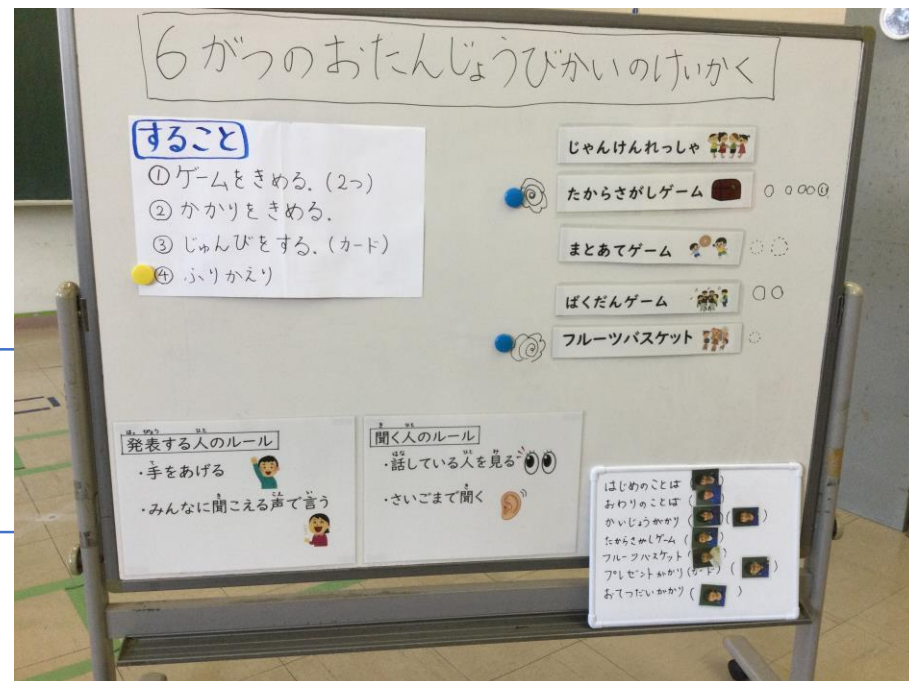
達成基準 「①②③標的行動が3授業連続できる」

記録方法：授業の様子をビデオに撮り，標的行動のカウントを行う。

指導方法

介入①（全体に対する支援）

- ・ 学習内容の提示（視覚化）
- ・ 話し合う事柄の焦点化
- ・ 「話し方・聞き方ルール」の提示
- ・ 活動中のフィードバックや振り返り活動による称賛



介入② (A児に対する個別支援)

2022年7月より介入②を開始

(1) 司会役を係活動として設定

- 初めは、挙手した児童を指名する役割
- 慣れてくれば、みんなの意見をまとめたり、決定事項の確認を行ったりする。

(2) 「今日のめあてカード」の導入

- A児の今日の授業のめあてを、授業前にカードを見せながら確認する。
- 授業終了後、指導者と共に、めあてが達成できたかどうか5段階で自己評価を行い得点化する。同時に指導者がA児の頑張りを褒める。

なかよしタイム 10/3

今日のめあて

① 発表ができる。

5 4 3 2 1

② みんなのことを考えた意見が言える。

5 4 3 2 1

③ 自分の役わりがはたせる。(しかい)

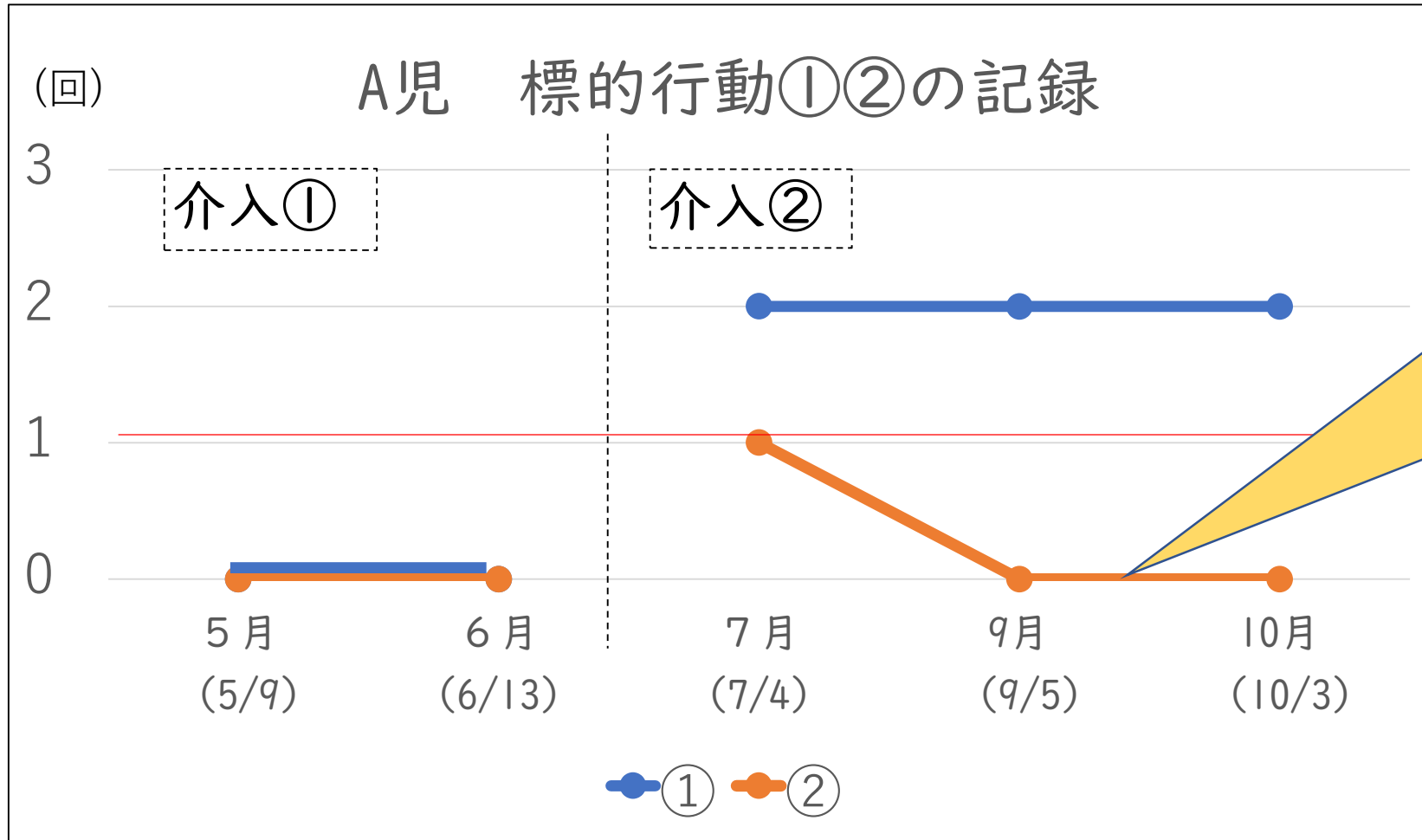
5 4 3 2 1

④ ふりかえりて発表ができる。

5 4 3 2 1

今日の点数 点

結果

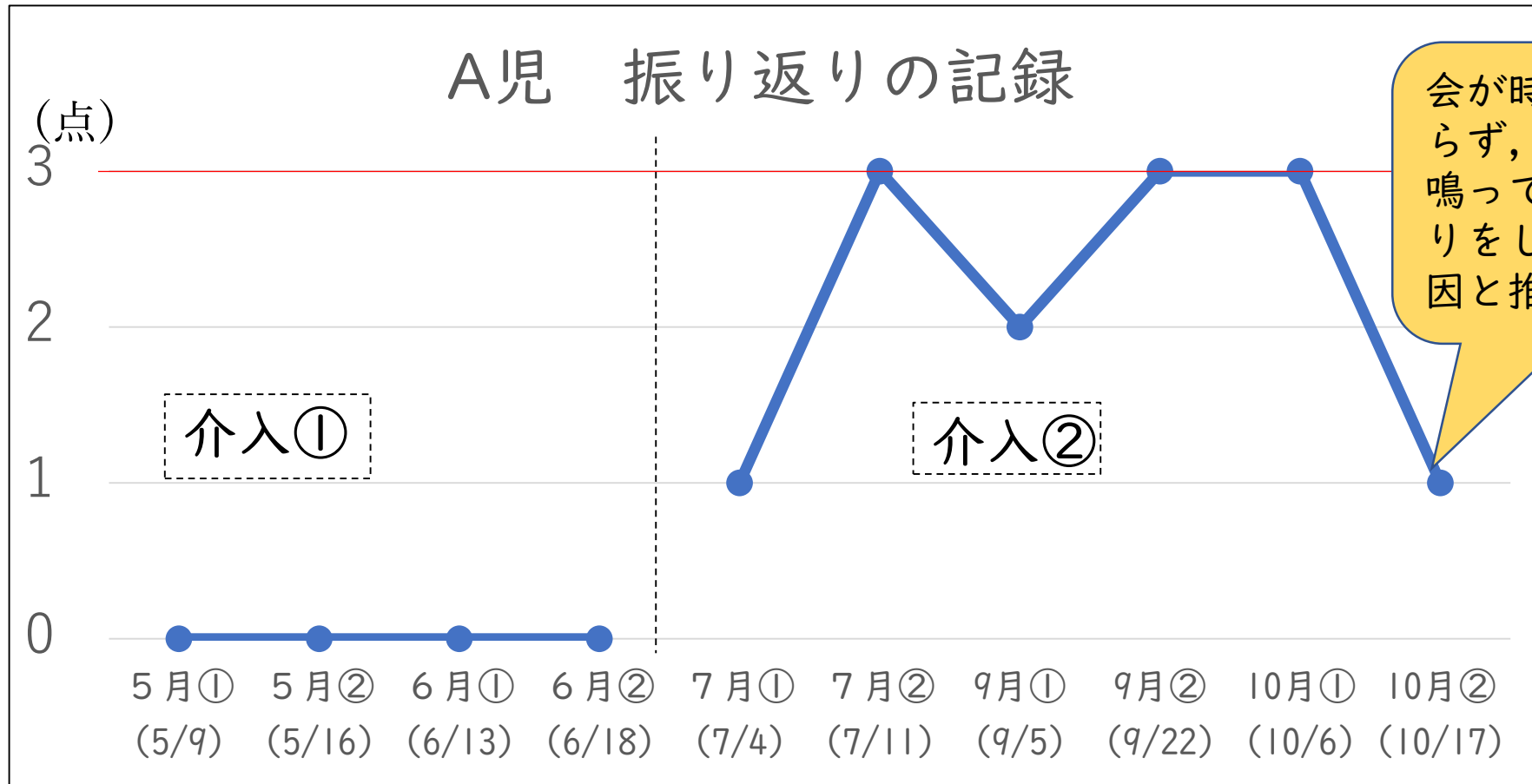


司会のため、
友達を指名する
ことが主となり、
自分の発言回数
が減少したことが
原因だと推測

標的行動
記録（回数）

- ①自発的に自分の意見を発表した回数
- ②他者を意識した発言をした回数

結果



評価基準
(得点)

- ・ 自発的に発表できた (3点)
- ・ 声かけや視覚支援の後に発表できた (2点)
- ・ 「～ができた人？」という指導者の声かけに挙手できた (1点)
- ・ 発表も挙手しなかった (0点)

指導の成果（A児）

- ・ 目標の明確化→行動の変化
- ・ 自己評価による意欲の向上
- ・ 役割による自己有用感の向上
- ・ 称賛による望ましい行動の増加

指導の成果（全体）

- ・ 1年生から6年生まで全員が課題解決に向けて活動できた。
- ・ 他者意識をもたせることができた。
- ・ 課題の達成度を上げることができ、成功体験を味わわせることができた。
- ・ 活動の見通しをもたせることができた→主体的な行動を引き出すことができた。
- ・ 称賛により、望ましい行動が増加した。